

バイブルスタディ Pastor JD Farag( 2018.07.22)  
エペソ人への手紙 6:1-3 「子供たちよ、両親に従い、敬いなさい。」

.....

今日の聖書箇所は**エペソ 6章 1-3節**です。

使徒パウロは聖霊によってこう書いています。

**1 子供たちよ。主にあって自分の両親に従いなさい。**

もう1度読みたいと思います。

**1 子供たちよ。主にあって自分の両親に従いなさい。**

子供たちのミニストリーに聞こえるように大きな声で言いたいですね。

**1 これは正しいことなのです。**

**2 「あなたの父と母を敬え。」これは約束を伴う第一の戒めです。**

**3 「そうすれば、あなたは幸せになり、その土地であなたの日々は長く続く」という約束です。**

祈りましょう。

愛する天のお父様、今日、私たちに与えられているこのみことばに感謝します。

みことばを理解できるように、聖霊が私たちの目を開いて教えて下さらなければ、時間を無駄にする可能性があるということをお認めします。

私たちは誰一人として、それを望んではいません。

だから主よ、いつもして下さるように、あなただけが出来る形で、今日、私たちのいのちに語って下さい。

主よ、感謝します。

イエス様の御名によって祈ります。アーメン

さて、「今週は、初めの**3**つの節だけを取り上げるように。」と主から語られているのを感じました。

子供たちが父と母に“従うこと”、そして“敬う”ことについてです。

その理由は、**4**節では両親、特に父親の責任について書かれているから。

興味深いことに、父親は、子供を両親に従うように教育、指導する最も重要な立場にあります。

言い換えると、父と母に課せられている義務は、主に従うように子供を指導することです。

なので、来週は**4**節だけを扱うことに決めました。

今日見ていくみことばと、とても密接に繋がってくるからです。

皆さんも分かるでしょうが、この**2**つのことが、子育てという最も難しい務めと関係しているのです。

私はビジネスを**2**つ興して会社を経営したことがあり、教会を**2**つ建て上げ牧会しましたが、これら全てをひっくるめても、少なくとも私にとっては、もしかしたら私だけかもしれませんが、**3**人の子供の子育てほど難しいものはありません。

子育てができるのは私の特権であり、勿論、彼らをととても愛しています。

しかし子育てについては、こう言わせて下さい。

これは、気が小さい人には無理です。

最高に難しい務めなのですから。

子育ての重要性については言うまでもないかもしれませんが、主に在って子供たちを育て、主に関する中で教育していくことは、聖霊の力なしには望めません。

さて、みことばに入る前に少しだけ背景を見ておきたいと思います。

そうすることで、この3つの節をもっと理解できると思いますから。

私たちはこれを“エペソ書”として知っていますが、これは肉筆の手紙で、使徒パウロが聖霊の靈感によって書いた使徒書簡です。

西暦61年か62年頃に書かれ、当時、実際に存在したエペソの教会に送られました。

そして全く興味深いことに、パウロは、ローマの牢獄に投獄されている時に靈感によってこれを書き、エペソの教会に送ったのです。

この手紙を受け取った教会の牧師は、教会の中で朗読、声に出して読みました。

彼が手紙を受け取った時には子供たちも教会にいて、その中で読まれたということ。

つまり、パウロは、「主に在って両親に従うことは正しいことだ。」「これを子供たちに教えるように。」と子供ミニストリーのリーダーに言ったのではなく、教会全体に向かって語ったのです。

このことを取り上げた理由は、幾つかシェアしたいことがあるからです。聞いて下さい。

私は、最も大切で優先されるべきことは、家族が共に礼拝すること、共にみことばの教えを聞くことだと思っています。

確かに教会の中での子供ミニストリーは必要で、そこでは年齢相応の学びができます。

しかし、最後まで私の話を、私の心を聞いて下さい…

それは、礼拝に参加していない、特に中・高学年の子供たちには、ひどい害を与えていると思うのです。

これは、非常に大きな仕打ちです。

説明しましょう。

これが（\*礼拝に共に参加しないこと）、若者たちが成長した時に、自ら教会から離れてしまうことの主な理由の一つです。

特に中・高学年の子供たちに、私たち大人が言ってきたのは、「あなたたちはあっちの同世代の集まりに行きなさい。私たち大人はこっちでやるから。」

これは、私たちが、共に神を礼拝することの豊かさと祝福を彼らから奪って来たということなのです。

皆さんが手を挙げて主を賛美している姿を子供たちが見ることは良いこと、素晴らしいことです。

みことばの教えを共に聞く時、その霊的領域では霊のダイナミックな力が働いて、説教者や牧師や教師のメッセージでは、聖霊が示したみことばにピッタリのことが話されるのです。

なぜなら、神のことばが虚しく帰って来ることは決してないから。（イザヤ 55:11）

上手く表現できないのですが…

聖霊は、自分だけが知っている、その人の心が一番必要としていること、一番求めていることを細やかに調整してくれます。

私には皆さんの心の中は見えません。

皆さんの何人かは、私の心が見えないことは良いことだと思っていますね。

そう、あなたにも私の心の中は分かりません。

ただ外見だけを見ますよね。

皆さんは外見も素晴らしいですよ。そのことを知って欲しいと思っただけですが。

しかし、神は心を見る。(Iサムエル記 16:7)

神は一人ひとりの心にある全ての必要を知っていますが、それは聖霊の力によってのみできることです。

聖霊は聖いみことばを通して信徒たちに語るということ、ある人が非常に上手に表現しました。

「神の聖霊は、神の聖なる人々に、神の聖なることばを通して働いている。」

これが今日ここで、教会の中で起こっているダイナミックな力なのです。

どうして、子供たちも共にここにいて欲しいと思わないのでしょうか。

私は毎月第一日曜日に行う聖餐式の事を考えていました。

私はいつも聖餐式を楽しみにしています。それはとても大切です。

ところで、毎月第一日曜日まで待たなくてもいいんですよ。

種なしパンとぶどうジュースを買って、自宅で家族と共に聖餐の時を持ち、主に向かって、主を覚え、主がして下さったことを思い起こすことを強くお勧めします。

こんな言葉を使って申し訳なくて、もっと良い表現ができるといいのですが…

私の考えを表現すると、私たちがこれをする時、主に許可を与えることになるのです。

家庭で聖餐式を行うということは、家庭の中心で聖霊に自由に働いてもらうということ。

特に中・高学年の子供たちがこのダイナミックな働きの一部であることは非常に重要なことなのです。

ある調査で、もう我慢ができないと思うほどの嘆かわしい統計が出ていました。

とても悲しい。

“教会で育った 10代から 30代の 59%は、もはや教会と共に何かをしようとは思っていない”

これで足りないなら、“今日、アメリカ合衆国で最も多い世代は 10代から 30代である”

私たちは自分自身に、「なぜこういうことになるのか」と問うべきだと思います。

子供たちを教会生活の中に加えなかったために、成長した時、自らを教会の一部だとは感じないのです。

私は子供の頃、両親に無理矢理引きずるようにして、教会へ連れて行かれたのですが、ひどくつまらなかったのを覚えています。

とにかく二人は、私を無理矢理、教会に連れて行きました。

スーツを着て固い椅子に座らされて。昔はそうでしたね。

襟が窮屈で、ポリエステルが痒くて、それは一番不快なことでした。皆さんも想像がつくでしょう。

とにかく早く終わって欲しかった。

それで、いつも教会に行く時間になると、行かなくてすむように、人類で最も珍しい病気を言い訳として思いつき、そうして教会が終わると、ご存知の通り、すぐに奇跡的に回復して。

また、礼拝中は、“牧師が何回 **the** という単語を言うかを数える”のような賢いアイデアが浮かんで、それをするので起きていることができました。

若者たちが「ほんと？ 何回 **the** を言うのか？」という顔で見えていますね。

私が言いたいのは、とにかくメッセージを聞いているべきだということです。

なぜなら、神のことばは虚しく帰って来ることはないから。

19歳でイエス・キリストの救いに与った時、神がその証人ですが、私は幼い時に聞いていたみことばを覚えていたのですよ！

何が起こったかという、神のみことばの種が蒔かれ、発芽し、時を経て急速に成長したのです。そして、人生も後半になった時…、少し先走ってしまっているようなので、話を戻しましょう。

子供たちをどうやって、その行くべき道に教育するのか。

**若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年若いても、それから離れない。(箴言 22:6)**

『箴言』によって、全ての親は自分自身を顧みることができます。素晴らしい。

子供が主に立ち返るのを、大人になるまで待たなければならないのですか？

いいえ、そんな意味じゃない。

それについて話しましょう。

私が思うに、教会生活の中に子供たちを加えなかったことが主な理由の一つですが、唯一の理由ではありません。

先週、この件を考えながら主に激しく尋ね求めていると、教会と共にあること、また神に関することは何もしたくないと思っているこの世代について、主は別の理由を思い出させて下さいました。

彼らがそう言うのは、私たちが終わりの時代にいるという預言的なしるしだということです。

## II テモテ 3:1-4

パウロが言っているリストを見て下さい。

- 1 終わりの日には困難な時代が来ることを、承知していなさい。
- 2 そのときに人々は、自分だけを愛し、金銭を愛し、大言壮語し、高ぶり、神を冒瀆し、両親に従わず、恩知らずで、汚れた者になります。
- 3 また、情け知らずで人と和解せず、中傷し、自制できず、粗野で、善を好まない者になり、
- 4 人を裏切り、向こう見ずで、思い上がり、神よりも快楽を愛する者になり、

### 1 終わりの日には困難な時代が

ある翻訳では、「終わりの日には危険な時代が」

パウロは「これが終わりの日の特徴、目印だ。」と言っているのです。

そうして、終わりの時代にはこのようなことが起こるという 19 のしるしをリストに挙げています。

これは、世に対してではなく、教会に、クリスチャンに向けて書かれていることを心に留めて下さい。

### 2 そのときに人々は、自分だけを愛し、

私がここで止めたのは、今、ふと考えたからです。

私たちはセルフイー（自撮り）の時代に生きていますね。

これについては時間がないので別の機会に、別の話題の時にしましょう。

### 2 そのときに人々は、自分だけを愛し、金銭を愛し、大言壮語し、高ぶり、神を冒瀆し、そしてこれ。両親に従わず、

すなわち、終わりの時代のしるしの一つは、教会の子供たちが両親に従わなくなるということ。

**恩知らずで、おお、本当に！感謝がない！**

### 3 また、情け知らずで (without love (NIV) / 愛がない)

先週アガペーについて話しましたが、興味深い言葉です。

ギリシャ語の愛には4つの言葉 (アガペー、ストルゲ、フィリア、エロス) がありますが、英語では love だけです。

ここの love はストルゲ。子供が親に、親が子供に対して持つ自然な愛情のこと。

「終わりの時代には、情け知らず (愛がない)、つまり家族の中で自然な愛情が欠如する」

### 4 人を裏切り、

自分の時間を取って、みことばを読むように皆さんを励まします。

これらの言葉を見て下さい。日常的に使う言葉ではありませんね。

最後に「ああ、あれは裏切りだ！」と言ったのはいつですか？

これはどうですか？ **向こう見ずで、思い上がり、**

「全て、私のことです！」

私たちが主を礼拝し賛美する時に、聖霊が心を探って語るのです。

「全ては主だと本当に信じているのか？」

もしかしたら、時には、全てが主ではないかもしれません。

息子二人と娘に教えた歌があるのですが、特に息子たちには教える必要がありました。こんな感じ。

♪世の中は、あなたを中心に回っているんじゃない。人生は公平ではないんだ。♪

惹きつけられる歌ですよ。

最後にパウロはこう言っています。

### 4 神よりも快楽を愛する者になり、

これらが、終わりの日に起こるしるしです。

これらのことは言い訳ではなくて、ある意味、解説です。

私は、「誰も希望を手放したり、希望を持つことを諦めようとしないように」と願います。

決して希望を失ってはならない！

特に、この世代に失望する必要はありません！

今日は、このみことばからメッセージしますが、みこころなら来週4節を語る時にそれを証明し、とても励まされる約束も伝えたいと思います。

既に触れましたが、これは約束を伴っていて、原語では基本的に、非常に興味深い言葉の組み立て方になっています。

### 若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。(箴言 22:6)

“年老いても、それから離れない”とは、若者が80歳になったら主に立ち返る、という意味ではありません。

その年齢では、もう死んでいるでしょうから。

少なくとも今日が、このみことばを理解する日になるといいのですが。

子供が放蕩しているという人に、主からの、主に在る励ましの言葉を送ります。

神は、あなたが今まで愛したよりも、もっとあなたの子供を愛している。

だから、絶対に絶対に絶対、息子さんや娘さんのことを諦めてはなりません。

神が何をしておられるのか、あなたには分からないのだから。

「でも先生、お言葉ですが、あの子のために祈れば祈るほど悪くなっていくようで…」  
がっかりしないで。

神は彼らとの関係を断ってはいないから。

神は彼らの中に働いています。

あなたが主を待ち望み、主に信頼する時、主の最善を知るでしょう。

これがみことばの約束です。

神があなたに約束したなら、それは既に確定事項、もう決定したことなのです。

ところで神の約束の実現は、私たちが望んでいる時や方法や状況の通りであるとは限りません。

子供たちがあんな経験しない方がずっと良かったのにと思うでしょうが、しかし理解しなければなりません。

神はその子を、あなたが愛するよりも愛しているということ。

もしかしたら、今日ここにいる誰かへの言葉かもしれませんが、神はその子が何をしているかを、あなたが知っているよりも知っています。

でも、私たちは何でも知っていると思っているので、祈りにこのようなはっきりした傾向が表れる。

つまり、こう祈っていませんか？

「主よ、あの子たちが先週したことを知っていますか？」

主が知らないとでも!?

天で、「ナニっ!? あの子たちが先週何をしたかなんて、何も聞いてないよ！」

想像できますか？ あり得ません！

木曜日の夜は詩篇 23 篇を学んでいるのですが、私はまだその名残に浸っている感じです。

そこには1つの言葉、実際には2つの言葉があります。

**『死の陰の谷を歩むとしても』(詩篇 23:4)**

*though I walk through the valley of the shadow of death (NIV)*

皆さんもよく知っていますよね。

2つの単語、through (歩む) と shadow (陰)

まず through (歩む)

**You are going to make it through!** (あなたは乗り越える!)

聖書の中で私が大好きなフレーズは、**It came to pass** (起こった・実現した)

これは、そのままの状態が続かなかったということ。

あなたが谷で行き詰っていることはないのです。

そして shadow (陰)

谷には陰がある、ということは、光があるはず。そうでないと陰はできません。

神はあなたが通っている谷の中で、あなたと共にいて、決してあなたから離れず、あなたを見捨てない!

(ヨシュア記 1:5)

主はいつもあなたと一緒にいます!

たとえ、この世の終わりの時が来ても、主はあなたの子供と共にいます！

神はあなたの子供から離れません！

「でも先生は、あの子たちが何に夢中になっているかを知らないんですよ。信じられないようなことをやっているんです。」

つまり、神が天で「どうしたもんだか。これは難しいケースだなあ。」と考えているとでも言うのですか？

いいえ。主にとって難しいことなど一つもありません。

私が今日の学びにこの話題を取り上げたかった理由は、パウロが聖霊によって書いたことと、私たちの子供に関することが完全に一致するからです。

父と母に“従うこと”と“敬うこと”について、3つの納得できる理由を挙げます。

第1. 正しいことだから。

これは全く当たり前のことに聞こえると思いますが、主に従い、主を敬うように、両親にそうすることは正しいことだから。

「そうは思わないよ。」 **No!** やりなさい！それが正しいことだから。

そうすれば、感情は後からついて来ます。

結婚生活での夫と妻に関するみことばの中でも、このことを話しましたね。

「私はそれをしたいとは思わないの。」 **No!**

信仰によってではなく、感情によって歩んでいるのですか？

自分がしたくないからやらないのですか？

やりなさい。それが、主に対して正しいことだから。

正しいことをするのは正しい。

主はそれを喜び祝福します。

これは、子供だけに当てはまることではなく、今日ここにいる全員一人ひとりに対して言えることです。

私たちが正しいことをする時、人生の中に神の祝福がもたらされているのです。

問題は、私たちはしばしば、不従順という縄で、人生に置かれた神の祝福の御手を縛ってしまうこと。

神は祝福したくないと思っているわけではありません。勿論、祝福したいのです。

私は、私たちが何でも尋ね求めるのを待っている愛なる天の父を思い浮かべます。

考えてみて下さい。

私たちは失敗もする不完全な肉の親ですが、それでも我が子を祝福したいでしょ。

私は二人の息子がまだ小さかった頃、デボーションの時に言ったことを覚えています。

「キミたちはママとパパが朝起きた時に、『今日はどうやってあの子たちに罰を与えようか』って考えるなんて本当に思っているの？」

まさか！いつもこんな感じですよ。

「さあ！彼らをウォーターパークに連れて行って驚かせよう！あそこが大好きなんだから。」

だって、我が子を祝福したいから。

神は私たちが祝福したいのだけど、私たちが正しいことをしたがないので、できない。

しかも、それは度々のことなのです。

第2。人生に於ける神の祝福だけが、人生を良くするのではないから。

これは実際のところ約束で、パウロが引用している「十戒」の中にしばしば見ることができます。

特に十戒の5番目。

これは、約束を伴う最初の戒めであり、且つ唯一の戒めです。

全ての戒めは「してはいけない!」「してはいけない!」「してはいけない!」

だけど、5番目に来ると、

**「あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が与えようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためにである。」(出エジプト記 20:12)**

私がこれを記憶しているのに気づきましたか? 両親が覚えさせたから。

ほらね、神のことばが虚しく帰って来ることはありませんよ。

私は何年も後になって、これを思い出したのですから。

この5番目は恵みを伴う唯一の戒めです。

“恵みの時代” “恵みの条項” とでも言いましょうか。

他の全ての戒めは「してはいけない」と言っていますが、この戒めは「もしあなたがそれをするなら、神はこうして下さる」と言っているのです。

「あなたが父と母を敬うなら、神はあなたの人生を祝福し、長くて楽しい人生を与える。」

ところで、第5戒について、シェアしたい面白いことがあります。

5という数字は恵みを表します。そして、恵みは全てを変えます。

よく聞いて下さい。

神がアブラムとサライに現れた時のことを思い出してみましょう。

神は言いました。

「あなたはもはや、アブラム『Abram』ではなく、アブラハム『Abraham』となる。」(創世記 17:5)

そして「もう、サライ『Sarai』ではなく、サラ『Sarah』となる。」(創世記 17:15)

神はヘブル語のアルファベットの5番目の文字『ה』(英語で『h』)を取り、それを彼らの名前の5番目の位置に置いたのです。

これを知っておいて下さい。名前は性質を表します。

名前が変わることで全てが変わったのです。様相も全て変わりました。それが数字の5。

こういうことを皆さんが学びたいなら、みことば全体を通して見ることができます。

このようなことに興味がある人はいますか? そんな人、大好きです。それはすごく面白い学びですよ。

因みに数字の7は完全、完成を表します。

8は新しく始まるという意味。

8番目の音は新しい音階(ドレミファソラシ・ド)の新しい音(ド)

8番目の色は虹の新しい色。

8番目の日は新しい週の初めの日(日曜日)などなど。

それで、数字の5は恵み。

なぜこれに興味があるかと言うと、子育てには恵みが必要だから。



ある人が言ったことで、本のタイトルにもなった言葉ですが、“Grace Based Parenting ” (\*Tim Kimmel 著) (恵みは子育ての基礎である)

来週は既に 85 回教えた教義を、もっと時間を取って分かち合います。

だから皆さん、来週も戻って来ないといけませんね。

主が導くなら、私が学んだ恵みを伴う子育ての厳しい行程を、いくつかシェアしようと思います。

恵み。恵みだけ。これ以上ないほどの恵み。

第3。従順は幸せな長生きの人生をもたらすから。

これは、「不従順のために人生が短くされるのは無駄なことだ」ということ。

私は 11 歳の娘サビアに言いました。

「パパとママはサビアに『それをするな。』と言うよね。『パパたちの言うことを聞きなさい。』って。それはね、パパたちはサビアが何に一番興味があるのかを知っているんだ。それで、サビアが言いつけを守らなかったために傷ついたり、怪我をしたりしてほしくないんだよ。」

「いやだ！ なぜ、しちやいけないの!?!」

私はいつもこの話しをして説明しました。

「フリーウェイでナイフのジャグリングをして遊ぶことはできないでしょ！ 言うことを聞きなさい。」バカげていますが、愚かであろうと何であろうと、ポイントは分かりますよね。

「だって、いいかい？ パパたちは襲って来る災いや危険からサビアを守ろうとしているんだ。そんなこと、あってはならないから。これが『パパたちの言うことを聞きなさい』ってきつく言っている理由なんだよ。」

恐らく同様に説明できるのは、戦場で、自分を守り管理するための命令に従わないことによって、自らの命を危険にさらすということです。

命令に従うこと、指令に従うことは、生死に関わるのです。

「幸せに長生きしたいなら、人生を無駄に縮めたくないなら、敬い従いなさい。」

興味深いことに、これに関して警告している箴言があります。

**自分の父を嘲り、母への従順を蔑む目は、谷の鳥にえぐり取られ、鷲の子に食われる。(箴言 30:17)**

私たちは子供たちに抑止力としてこれを覚えさせたものでした。

「言うことを聞かないなら、カラスが来てめん玉をえぐり取るよ！」

この箴言は、「親を嘲る子、不従順の子は、親の躰を無駄にするから、自らの人生を失う」と言っているのです。

そこには早過ぎる死があり、そして死骸を食べる鳥の餌食になる。それがこの箇所描写です。

さて、両親に従い、敬うことについてよく聞かれる質問の内、2 つに関して聖書的に回答しましょう。

最初の質問は、大変深刻なのですが、“子供は虐待する親に従うべきか。”

絶対に No！ 何があっても No!! 絶対の絶対の絶対に No!!!

言わなくても分かるでしょうが、子供を虐待する親は決して容認されません。

間違いなく神が禁じている性的側面と、肉体的側面があるのですが、更に言うと言葉の面でもそうです。

**父たちよ。自分の子どもたちを怒らせてはいけません。(エペソ 6:4)**

言葉で子供を虐待してはならない。

パウロが「主に在って」(エペソ 6:1) と限定して書いていることで明らかですが、親が神に逆らって行動することは、主に在るのではないから、子供は親に従うべきではないのです。

二つ目の質問。“尊敬と敬意の違いは何か。”

同義語？ そうとも言えません。

非常に簡単に話すのを許して頂きたいのですが、“敬意”は与えられるもので、“尊敬”は得られるもの。たとえ成人であっても、親に生活させてもらっているなら、親に敬意を払わなければなりません。

「Ok。でも尊敬はしない。」

違います。そうじゃなくて親に敬意を示すのです。

それが主に在って正しいことであり、それゆえに神はあなたを祝福します。

ところで皆さんは、義理の父親にも、敢えて言うと義理の母親にも、敬意を払わなければなりません。

「彼らを尊敬なんかしないよ。」

いいえ、そうじゃない。

これは誰かの歯車を狂わすことかもしれないけど、イエスの御名によって、私はあなたの歯車を壊しましょう。彼らの権威、役割、立場と言ってもいいですが、それらのゆえに敬意を示すのです。

あるコメンテーターがこのように説明していました。

「父や母に敬意を示すことの意味は、大人になるにつれて変化するかもしれないが、主要な部分は常に同じ。だから、大人になった子供は両親に従順する義務はないが、まさに敬意を示さなければならない。」

十戒の内、最初の4つの戒めは、“心と意思と力で神を愛すること”についてで、後の6つは“自分自身のように隣人を愛すること”であると言う人がいますが、違います。

最初の5つが、“心と魂と意思と力で神を愛すること”です。

なぜなら、私たちが父と母に敬意を示すことは、天の父に対してそうしていることになり、それは神に敬意を示すことだからです。

では、ルカ 2:51-52 の従順と敬意に関する完璧な例示を以って終わります。

本当に魅力的な箇所なので、是非このところ全部を読んで下さい。(ルカ 2:40-50)

12歳のイエスが宮にいて、人間の姿をした神が、宮に両親と一緒に。

と言っても、実父ではありません。

この世での父ヨセフと母マリアです。

両親はイエスが見当たらないのでひどく驚きました。どこにいるのか？

彼は宮にいて、人々に神のみことばを教えていたのです。

両親は彼を見つけて、「どこに行ってたの？ 何があったの？ どうしちゃったの？」

これは、イエスが両親との間でトラブルった唯一の場面だと思いますが。

勿論、イエスは愛を込めて答えます。

「わたしが自分の父の家にいるのは当然です。」(ルカ 2:49)

ヨセフは黙りました。

*それからイエスは一緒に下って行き、ナザレに帰って両親に仕えられた。*

*母はこれらのことをみな、心に留めておいた。(ルカ 2:51)*

最後に聞いて下さい。

*イエスは神と人とにいつくしまれ、知恵が増し加わり、背丈も伸びていった。(ルカ 2:52)*

メッセージを締めくくるのに、これ以外の良い方法はありません。

私たちが従順になり敬意を示せば、その結果、神と人とに慈しまれ、知恵が増し加わり、背丈も伸びていくのです。

祈りましょう。

天のお父様、今日の3つの節のみことばをありがとうございます。

これは成人した私たちの人生にも適応できることです。

主よ、感謝します。

私たちの天の父であるあなたに、心から敬意を表します。

主よ、私たちも敬意を払い、尊敬し、従順する人になるように切に願います。

イエス様の御名によって。

アーメン

.....

*「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7*

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi